

報告事項ア

平成28年度第1回鳥取県ICT活用教育推進協働コンソーシアム幹事会の概要について

平成28年度第1回鳥取県ICT活用教育推進協働コンソーシアム幹事会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成28年8月10日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成28年度第1回鳥取県 ICT 活用教育推進協働コンソーシアムの概要について

平成28年8月10日
教育環境課

将来、知識基盤社会で活躍できる人材育成のため、産学官で協働して取り組める事項を検討するため、平成28年7月22日に有識者で構成する鳥取県 ICT 活用教育推進協働コンソーシアムの平成28年度第1回会議を開催しました。

1 概要

(1) 内容

ICT教育に関する教育委員会関係課、産業界及び大学における今年度のそれぞれの取組、事業を紹介し、各々が協力できる部分で、相互に取組に協力することとした。

(2) 幹事からの主な意見

- ・10年ほど前から情報技術に携わる人材（プログラマーやシステムエンジニア）の不足が課題となっている。情報技術の楽しさよりも難しさ、責任の重さなどイメージによるものが大きいようだ。
- ・大学でもプログラミングを教えても、プログラミング自体はできても、その基礎であるフローチャートの作成など論理構成ができない学生が増えてきている。
- ・海外では大学の教員が地元の小中学校に出向き、課外授業でロボット工学などの先端分野をテーマに講義を行うなどしており、実際に先端分野での子どもたちの能力が飛躍的に伸びている。
- ・国において2020年を目途に小学校におけるプログラミング教育の必修化の検討が進められているが、他に先んじて前倒しで取り組むべき。
- ・子どもたちの能力を開花させるためには、まずきっかけの提供が必要。体験教室などを通じて興味をもってもらうことが欠かせない。
- ・プログラミング教室等の取組みも、現在は東部地区の活動が中心であり、これを全県的に展開していくことが必要。それぞれの取組を面で展開していくため、実際の活動を記録として残し、県ホームページ等での情報発信や中西部での活動に利用してもらってはどうか。
- ・情報技術が飛躍的に進化していく中で、単に情報機器等の活用能力だけでなく、情報を判別できる能力（情報リテラシー）の育成が必要。
- ・鳥取県内にもICT教育に先進的に取り組んでおられる教員の集まりがあるので、現場の意見を聞く機会を持つてはどうか。

(3) 今後の対応

- ・プログラミング教室等を映像等で記録に残し、情報発信を行うと共にアーカイブとして活用。
- ・現場の意見を取組に反映するため現場の教員へのヒアリングを実施。

2 当面の予定

- 8月3日（水） 中学生を対象とした鳥取大学講義体験・見学会の開催
小中学生を対象としたプログラミング教室の開催（於：湖東中学校）
- 8月10日（水） 第2回プログラミング教室の開催（於：河原中学校）

参考：鳥取県 ICT 活用教育推進協働コンソーシアムについて

教育分野におけるICTの必要性についての認識が高まる中、技術革新の激しい今日の知識基盤社会に、よりの確に対応出来る人材を育成していくためには、教育現場において、コンピュータとテクノロジーに関する経験と知識を身に付けさせることが必要となっている。こうした社会背景の中、産業界、大学等と協働コンソーシアムを組織し、期待されている教育分野でのICT活用を様々な角度から検討し、鳥取県の将来の人材育成を支援する。

（幹事） 公立鳥取環境大学環境学部 教授 足利 裕人 氏（今回、欠席）、有限会社ウィル 代表取締役社長 井上 法雄 氏、国立大学法人鳥取大学 副学長 岸田 悟 氏、有限会社エコシステムクリエイター 代表取締役 松田 善夫 氏

